

MEIJI MURA

明治村だより 123
2026 AUTUMN

明治村の建築に視る日本近代青春群像物語〈23〉
北里研究所本館・医学館の佇まいと
“終始一貫”の精神(北里柴三郎)を支えたもの(その2) …… 2
TOPICS & 秋の催しもの …… 4
明治村百景紙上展覧会 …… 6
旧東宮御所のおもかげ
～明治村所蔵の暖炉内枠～ …… 8
A La Meiji-mura
皇居正門石橋飾電燈の細部をたずねて …… 10



明治村みらい基金

私たちの未来を豊かにする「明治」の価値
一緒に残し、伝えていきませんか

歴史的建造物を中心とした「明治時代からの贈り物」を未来へ残し続けるためには、多くの資金が必要です。明治村事業へのご支援をお願いします。

ご寄付の方法

明治村みらい基金へのご寄付は、以下の方法で行うことができます。

- ・クレジットカード ・金融機関からの振込
- ・ゆうちょ銀行からの払込

1回3,000円からご支援いただけます(マンスリーサポーターは月額1,000円から)
公益財団法人明治村へのご寄付は税制上の優遇措置の対象となります。

詳しくは博物館明治村公式サイト内「明治村みらい基金」をご覧ください。



ご返礼の内容

ご支援額に応じて、感謝の気持ちを込めたご返礼をお届けいたします。

〈返礼品の例〉

【マンスリーサポーター】毎月メールマガジンを配信し、歴史的建造物や歴史資料の修理・保存をはじめとした明治村での様々な活動の様子をご報告いたします。

【年間3万円～】明治村ペア入村券進呈 等

【年間10万円～】現地での活動報告ツアーご招待(建築・学芸・乗物各担当がご案内する特別なツアー)、ご支援者さまの集いご招待(明治村みらい基金1年間の活動報告)、第二のふるさと住民票発行(1年間入村無料) 等

活動報告ツアーを実施しました

6月7日、建築担当による活動報告ツアーを実施しました。修理工事を行った「帝国ホテル中央玄関」を舞台に、建築家フランク・ロイド・ライトの生涯や思想が同建物の設計に与えた影響や、修理工事を行った箇所や方法、その意図について解説しました。その後の現地ガイドでは、解説を踏まえて現場をご覧いただくことで、建物の魅力を深掘りして楽しみいただきました。



協賛会員 (令和8年8月1日現在)

敬称略:五十音順

ゴールド会員

(株)田中荘介商店 東朋テクノロジー(株) (株)ファーストシステム 名鉄都市開発(株) 矢作建設工業(株)

一般会員

アイカ工業(株)	アサヒ飲料(株)	朝日工業(株)	アサヒビール(株)
厚見建設工業(株)	(株)安藤・間	(株)磯部組	(株)伊藤園
伊藤森商事(株)	因幡電機産業(株)	(株)魚津社寺工務店	NTTドコモビジネス(株)
NTT都市開発(株)	NTT西日本(株)	(株)NTTファシリティーズ	NTP名古屋トヨペット(株)
オーパススタイル(株)	(株)大林組	岡谷鋼機(株)	(株)オノコム
鹿島建設(株)	(株)関電工	ぎふ金華山ロープウェー	キリンビバレッジ(株)
(株)熊谷組	(株)鴻池組	興和地所(株)	コクヨマーケティング(株)
(株)ココトモファーム	五洋建設(株)	(資)斉木研磨工業所	(株)ザイマックス
佐藤工業(株)	柴山コンサルタント(株)	清水建設(株)	(株)新高土木
スターツ東海(株)	(株)スペース	(株)扇港電機	ダイキン工業(株)
大興建設(株)	大成建設(株)	(株)タカラレーベン	(株)竹中工務店
(株)谷澤総合鑑定所	中京テレビ放送(株)	中設エンジ(株)	鉄建建設(株)
東京海上日動火災保険(株)	東洋電機製造(株)	戸田建設(株)	鳥谷尾建築研究所
(株)中島工務店	中日本航空(株)	中村耳鼻咽喉科(春日井)	名古屋レジデンシャル(株)
(有)鍋野事務所	(株)二幸	西松建設(株)	日鉄興和不動産(株)
日本工営都市空間(株)	日本たばこ産業(株)	日本郵便(株)	(有)ねこりす
能美防災(株)	(株)長谷工コーポレーション	(株)日立製作所	(株)ファミリーマート
(株)フジタ	(株)不動テトラ	ホーチキ(株)	前田建設工業(株)
(株)みずほ銀行	三井不動産(株)	三菱商事(株)	三菱電機(株)
名高土木(株)	名鉄EIエンジニア(株)	名鉄エリアパートナーズ(株)	(学)名鉄学園
名鉄協商(株)	名鉄ビルサービス(株)	(株)名鉄ホテルホールディングス	(株)名鉄ミライート
(株)ヤシマキザイ	(株)LIXIL	(株)リノテック	若松物産(株)



表紙について

「引札手回しミシン」 年代・作者 不詳

「明治村だより」第123号(令和8年秋号) 令和8年9月18日発行

発行 博物館明治村

〒484-0000 愛知県犬山市宇内山1番地 電話 (0568)67-0314 <https://www.meijimura.com>

製作 大日本印刷株式会社

「明治村だより」第124号発行のお知らせ

発行時期 令和8年12月予定

「明治村だより」は、順次Webで公開させていただきます。詳しくは博物館明治村公式サイトをご覧ください。

※郵送サービスは終了いたしました。ご了承ください。

北里研究所本館・医学館の佇まいと “終始一貫”の精神(北里柴三郎)を支えたもの(その2)

三 北里研究所本館・医学館の佇まいが伝えるもの

明治村に移築された北里研究所本館(以下、「研究所本館」とする)(写真1)。竣工は大正四(一九一五)年十二月である。北里がドイツ留



写真1 北里研究所本館・医学館



写真2 ローベルト・コッホ(※)



図1 「国民新聞」の記事より伝染病研究所の挿絵(※)



写真3 内務省伝染病研究所(※)



写真4 コッホ研究所(「The Robert Koch Institute - A Historical Overview」より転載)

学から帰国後に設立した最初の伝染病研究所(註1)は、個人住宅のような建物から始まった(註2)。これは奇しくも、北里が生涯の師と仰いだコッホ(写真2、註3)が初代所長を務めた王立プロイセン伝染病研究所(註4)も一八九一年の開設当初は改装された住宅建物を利用してのことと重なる。生涯の師と仰いだコッホの歩んだ道は、さまざまな面で北里に深い影響を与えていたに違いない。

に新築移転しており、この建物の計画にはコッホも関与している(この一九〇〇年に建てられた建物を以下、「コッホ研究所」とする(註5))。北里が私的に建てた伝染病研究所の建物のデザインは必ずしも詳らかではないが、国に移管された後、明治三十九(一九〇六)年に竣工した内務省伝染病研究所(写真3)とこのコッホ研究所(写真4)とは、ファサードのデザインに近接したところがあるように思える。そして研究所本館にも正面中央の妻飾り、屋根中央頂部の尖

四 コッホから学び、北里が歩んだ「明治の精神」

北里にとってコッホは師であり、憧れであっただけでなく、同じ道を歩んだ同志でもあった。北里は、コッホ逝去の翌年(明治四十四年)にコッホの遺髪を祀ってコッホ祠を建て、北里



図2 研究所本館正面立面図

が逝去した翌年(昭和七年)には門下生らが北里祠を建て、現在は、「コッホ・北里神社」として合祀されている(写真5)。コッホは晩年来日し、七十三日間滞在している。常に傍らには北里の姿があったという。北里はコッホの来日を記念し、月桂樹を国立伝染病研究所に植樹している。月桂樹はその後設立された北里研究所に移されており、各地の北里やコッホゆかりの場所に「枝分け」されている。明治村へ移築された研究所本館にも「枝分け」された月桂樹があった(写真6)。

sted)と呼ばれ、ドイツ・バロック風あるいはオランダ町家の正面飾り等に多く用いられている(図3、写真7)。破風の各段の装飾も類例の少ない特異なものである。屋根中央の尖塔飾りはドイツ・ゴシック風のものより存在感が強い(図2)。腰折れ屋根のドーマ窓、正面破風、軒下小壁の白漆喰仕上げ、そして三回塗り替えを経た薄いグレーグリーン色の下見板張りの壁と破風の下のH字にも見える装飾の端正な構成(写真8、註9)がドイツ北部から地中海世界を遠望するような、引き締まった風情を作り出している。玄関ポーチや中央階段手摺の柱の切面や条溝(図4、写真8、註10)には、歯切れのよい新しい世界への憧れが秘められているように思われる。

いた北里は目にする機会は多くはなかったが、渡欧した際にはその姿をしかと目に焼きつけたにちがいない。大正三年の朝日新聞の記事によると、コッホ研究所を評して「内の各部の工合は日本の伝染病研究所に似て居る、夫れも道理 日本のは此のコッホ、インステチウトを手本にしたのである。北里博士がコッホの高弟であることは今更書き立てるまでもあるまい」と書かれている(註11)。

あった。この精神こそ、明治期の日本とドイツの共通する最良の時代精神であった。だから大正初期に建てられた北里研究所本館・医学館も時代精神の真の意味での明治建築なのだと思う。



写真7 研究所本館正面切妻階段状破風

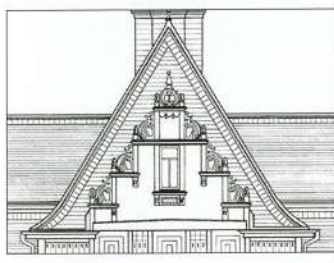


図3 研究所本館正面切妻階段状破風



写真8 研究所本館玄関ロビーと中央階段



写真10 玄関バルコニーの柱の条溝部分

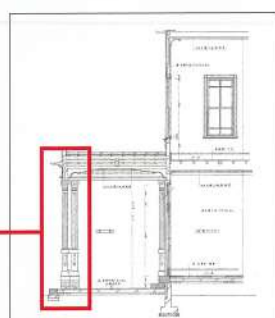


図4 研究所本館車寄せ矩計図



写真11 尖塔飾り木造下地の腐食状況(2009-2010年の修理工事時点)

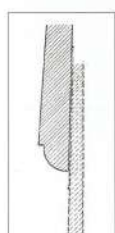


図5 下見板重ね部分



写真5 コッホ神社(左側奥)、北里神社(右側手前)(※)



写真6 明治村に枝分けされた月桂樹(現在はご覧いただけません)



写真9 中央階段手摺の条溝部分

(※)は全て学校法人北里研究所北里柴三郎記念博物館提供

註一 一九九九年「伝染病予防法」廃止以前の事項については「伝染病」の語を用いる。

註二 KOCH, Heinrich Hermann Robert, 1843-1910 ドイツの医師、細菌学者。開業医から衛生技官を経て、一八七六年に炭疽菌、一八八二年に結核菌、翌年にコレラ菌を発見した。一九〇五年ノーベル生理学・医学賞を受賞。Königlich Preussisches Institut für Infektionskrankheiten 一八八二年、コッホは結核の病原体を発見したことを発表し、世界的な名声を得た。一八八五年にはベルリンのフリードリッヒ・ヴィルヘルム大学に衛生研究所(Hygiene-Institut der Friedrich-Wilhelms-Universität)が設立され、コッホの成功と細菌学の発展を背景に、伝染病研究のための独立した研究所の設立が計画され、一八九一年に王立プロイセン伝染病研究所が開設された。コッホはその初代所長を務めた。この研究所は、開設当初改装された住宅を利用して、同年研究所は一九二二年コッホの結核菌発見三十周年を記念して、コッホの名前を加えた「Königlich-Preussisches Institut für Infektionskrankheiten Robert Koch」と改称された。この研究所の建物は現存している。

註三 赤痢菌を発見した志賀(二八七―一九五七)や田中四郎の肖像であった野口英世(一八七六―一九二八)、梅毒の特効薬の創製に成功した秦佐八郎(一八七三―一九三八)らは北里の門下生である。

註四 柱などに溝を掘った意匠のこと。

註五 『朝日新聞』一九一四年十一月四日付

参考文献

(一) 博物館明治村 二〇一二年「北里研究所本館・医学館保存修理工事報告書」

学芸員の小部屋

本に残された記憶 ～「しるし」が結ぶ人と本～

本に押されたハンコは、かつての持ち主を知る手がかりのひとつです。名前や好きな言葉が刻まれた「しるし」からは、誰の本だったのか、そして本に寄せた思いが見えてくることもあります。本に残されたハンコを手がかりに、本と持ち主の物語をご紹介します。



「行年」(夏目漱石著)より



「運道集」(夏目漱石著)より

会場 千早赤阪小学校講堂

常設展示 「明治の宮廷家具」 展示室リニューアル

昭和の大改修によって部屋の用途が変わり、現在では見ることができない旧東宮御所(現迎賓館赤坂離宮)の創建当時の室内空間。現代の技術を駆使して彩色した古写真と、当時に使用されたオリジナル家具を組み合わせ、あなたを往時の華麗な宮殿へと誘います。



「東宮御所写真帖」球戯室をもとに彩色

会場 三重県庁舎1階

9/26より公開!

西郷従道邸・建築プレミアムガイド 「正解」のない修理の旅 ～修理技術者のゆるる本音ツアー～

事前予約制
修理工事をひかえた今だから話せる、技術者の「ここだけの悩み」を、建物をご案内しながらそっとお教えします。

時間 ①11:00～②13:30～(各回約45分)
対象 高校生以上
参加料 お1人様1,500円(各回15名様)

詳細・ご予約 右記の二次元コードよりご確認・お申し込みください。



ハーブコンサート

逆三角形の枠に張られた47本の弦を、指で弾いて音を出す撥弦楽器「ハーブ」。教会堂内に響き渡る、優雅で透き通るような音色をお楽しみください。

時間 ①11:30～②14:30～(各回約30分)
会場 聖ザビエル天主堂
出演 和装ハーピスト綾

スタッフの“推し”ガイド 事前予約制

普段ガイドを行っていない建物や非公衆資料などを組み合わせた、スタッフのイチオシをご案内します。

10月 第四高等学校物理化学教室・清水医院
11月 西園寺公望別邸「坐漁荘」・茶室「亦楽庵」
12月 聖ザビエル天主堂・大明寺聖パウロ教会堂
時間 ①10:30～②13:30～(各回約90分)
参加料 お1人様700円(各回15名様)



茶室「亦楽庵」



明治体験工房

会場 名鉄岩倉変電所
折り本づくり体験
お気に入りの表紙や紙を選んで、自分だけの小さな折り本をつくろう!

受付時間 10:30～16:00(体験時間20～25分)
参加料 1回500円



ハンコ&しおりづくり体験

ご自身のイニシャルを彫ってハンコをつくり、ハンコを押してしおりを完成させよう!

受付時間 11:00～15:00(体験時間20～25分)
対象 小学校・中学校・高等学校
参加料 1回600円



燈台記念日特別企画

通常非公開の品川燈台内部を特別公開するほか、燈台の歴史や海図の展示、ラジオ工作教室(事前予約制)などのイベントを行います。

時間 10:00～15:00
会場 品川燈台、北里研究所本館・医学館



協力/第四管区海上保安本部、(公社)燈台会、日本銀線(株)

一部事前予約制 イベントあり

10/31 11/1

明治村矯正展 ～明治村で見つける更生と社会復帰～

更生支援について紹介する展示や刑務所作業製品展示即売会を開催。矯正行政の取り組みや更生支援の大切さを見て、知って、感じよう!

時間 10:00～16:00 ※23日は15:00
会場 金沢監獄中央看守所・監房

共催/名古屋刑務所、中部矯正管区



※展示イメージ

明治村写真コンテスト入賞作品展

9/19 12/13
会場 東山梨郡役所2階



令和7年度大賞作品「ホテルの曲がり角」

蒸気機関車9号といっしょに記念撮影をしよう!

約3年間のオーバーホール整備を終え、明治村へ戻ってきた蒸気機関車9号といっしょに記念撮影をしよう。※車両故障や荒天等により中止する場合があります。

時間 9:30～10:30
※お並びのお客様が多数の際は、表記時間より早く受付を終了する場合があります。

会場 SL東京駅車台付近
※車両から蒸気や煙が出ていない状態での撮影になります。



明治謎解きアトラクション 江戸川乱歩と不可解な残像 ～暁と影～ 9.12 Sat. 12.23 Tue. ※休村日を除く

MEIJIMURA TOPICS ▶2026.4-2026.9

7/29

蒸気機関車9号、オーバーホールを終え帰還

蒸気機関車9号は、東海汽缶蒸気機関車整備工場(静岡県島田市)で約3年間にわたるオーバーホールを終えました。オーバーホールにより判明した主台枠の亀裂や足回りの経年劣化を中心に修理を行い、すべての整備工程が完了したことから、大型トレーラーで明治村まで運び、大型クレーンで車両をつり上げて搬入し、無事明治村へ帰ってきました。「SLオーバーホール基金」のご支援にも支えられ、費用の一部に活用させていただきました。同基金へ一定額以上をご寄付いただいた方を対象とした見学会も開催しました。



6/23～8/23 東京都江戸東京博物館で開催された特別展 へ明治村の資料を貸出

江戸東京博物館リニューアル記念特別展「洋館 明治の夢と挑戦」へ、明治村所蔵の宮廷家具や鹿鳴館で使用された長椅子など合計11点を出品し、より多くの方に収蔵品をご覧いただくよい機会となりました。



7/25～9/6 学芸員の小部屋 「『夏』だって暖炉は部屋の華」を開催

暖炉を使わない季節に暖炉の前に立てる「暖炉衝立」や、旧東宮御所(現在の迎賓館赤坂離宮)などで使用されていた暖炉の部材をご紹介します展示を千早赤阪小学校講堂にて開催しました。展示を通して各建物に設置された暖炉にも目を向けていただくよい機会となりました。



7/1～8/31 夏のしつらえを しました

各日本家で夏のしつらえを行い、視覚や聴覚から涼を求めた先人たちの知恵をご紹介します。



7/8,11 犬山市民総合大学「敬道館」の博物館 講座が村内で開講されました

学芸員が講師をつとめ、会場となった第四高等学校物理化学教室の特徴や歴史などをご紹介します。

4/12,13 第58回 明治村茶会を開催

今年は、坐漁荘・亦楽庵席(濃茶)を野村美術館様に、学習院長官舎席(薄茶)を八勝館様に、聖ヨハネ教会堂席(立礼)を狸庵文庫美術館様にご担当いただき、趣向を凝らした茶席を設け、普段の建物とは異なる雰囲気の中お楽しみいただきました。

6/19～22、7/3～6 スタッフの “推し”建物ガイドを実施

スタッフのイチオシの建物をご紹介します特別ガイドを、6月は帝国ホテル中央玄関、7月は森鷗外・夏目漱石住宅にて開催しました。それぞれの建物の見どころをご紹介しますほか、解体材や明治村所蔵の森鷗外・夏目漱石の著作の初版本に触れていただくなど、通常のガイドから一歩踏み込んだ内容をお楽しみいただきました。10月以降もガイドする建物を変更して開催予定です。



新ガイド企画「プラスONE」ガイドを実施

通常の建物ガイドではご紹介しきれない建物や資料の魅力をピンポイントでお伝えするガイドを不定期で開催しています。5月は前橋監獄雑居房の監房について、6月は高田小熊写真館2階スタジオの書割について、7月は学芸員の小部屋の展示資料について解説しました。



5/30 「日本リードオルガン協会創立30周年記念 リードオルガンの日プレイベント～明治の 風琴(足踏みリードオルガン)に出会いませんか?～」を開催

6/1の「リードオルガンの日」にちなみ、日本リードオルガン協会の方による明治村所蔵のオルガンのミニコンサートと、演奏体験を聖ヨハネ教会堂にて開催しました。



各イベントの詳細は、明治村公式HPをご覧ください。

入賞者一覧			
	賞名	タイトル	撮影者
入選	明治のある風景賞 入賞	Luxury Seat	服部 哲治
	鉄ショット賞 入賞	色づく秋を走る	濱田 修
	フェスティバル賞 入賞	夢花火	有馬 育男
	季節のうつろい賞 入賞	花降る木の下で	三須・美樹
協賛会社賞	坂の上の雲ミュージアム賞	紫雲たなびく	石井 正俊
	坂の上の雲ミュージアム賞	秋終盤の頃	村上 良昭
	坂の上の雲ミュージアム賞	初夏のわた雲	柳瀬 弘宜
	坂の上の雲ミュージアム賞	木洩れ日の記憶	浅野 裕二
	坂の上の雲ミュージアム賞	静謐に佇む	奥村 和夫
	ハクバ写真産業賞	秋光の記憶	中世古里名
	ハクバ写真産業賞	雪景を行く	土赤 幸二
審査員特別賞		錦秋	穂積 智子
		前橋監獄のシルエット	渡辺信之介
		木洩れ陽	田中 賢
		威風堂々	大井 敏裕
		光の風	永治 実

明治村写真コンテスト「明治村百景」募集要項 【応募期間】2026年7月1日～2027年6月30日(必着)

募集要項	テーマ	▶ 明治村を表す作品 ・明治村の四季折々の美しさや賑わい ・明治村を楽しむ人々の心温まる風景やイベントの様子
	審査	▶ 明治村で選考した委員
	発表	▶ 2027年8月末までにご本人宛に通知
	表彰式・作品展	▶ 2027年秋を予定
賞	主催	▶ 博物館 明治村
	協賛	▶ 坂の上の雲ミュージアム(松山市)、 ハクバ写真産業株式会社
	ご応募及びお問い合わせ先	▶ 〒484-0000 愛知県犬山市宇内山1番地 博物館 明治村 「写真コンテスト」係 TEL 0568-67-0314
	賞	

明治村大賞 1点 賞金10万円・記念品・賞状
村長賞 1点 賞金3万円・記念品・賞状
明治のある風景賞 2点 賞金・記念品・賞状
(特賞:賞金2万円 入賞:賞金1万円)
建物や村内の風景をおさめた写真が対象
鉄ショット賞 2点 賞金・記念品・賞状
(特賞:賞金2万円 入賞:賞金1万円)
SLや京都市電など乗り物の写真が対象
フェスティバル賞 2点 賞金・記念品・賞状
(特賞:賞金2万円 入賞:賞金1万円)
村内で開催されたイベントの写真が対象
季節のうつろい賞 2点 賞金・記念品・賞状
(特賞:賞金2万円 入賞:賞金1万円)
季節を感じられる写真が対象
坂の上の雲ミュージアム賞 5点 記念品・賞状
ハクバ写真産業賞 2点 記念品・賞状
審査員特別賞 5点 記念品・賞状

合計22点

※賞や賞品等は、予告なく変更する場合があります。



明治のある風景賞
「時が過ぎてゆく」石井 祐吏



鉄ショット賞
「歴史を背負い出発進行」赤井 恒雄



フェスティバル賞
「聖夜を彩る光の讃歌」岩田 幹生



季節のうつろい賞
「秋彩に染まる」石川 宏枝

明治村写真コンテスト 明治村百景 紙上展覧会



明治村大賞
「ホテルの曲がり角」今井 桂思

令和7年7月から令和8年6月までにご応募いただいた明治村写真コンテスト「明治村百景」の受賞作品の一部をご紹介します。四季折々に姿を変える明治村の風景をとらえた作品や、明治村ならではの催し物、歴史的建造物を斬新な視点で切り取った作品をぜひご覧ください。

(敬称略)

令和8年9月19日(土)から
令和8年12月13日(日)まで
東山梨郡役所2階にて入賞作品展開催中

村長賞
「秋、隣」掛布 巳幸

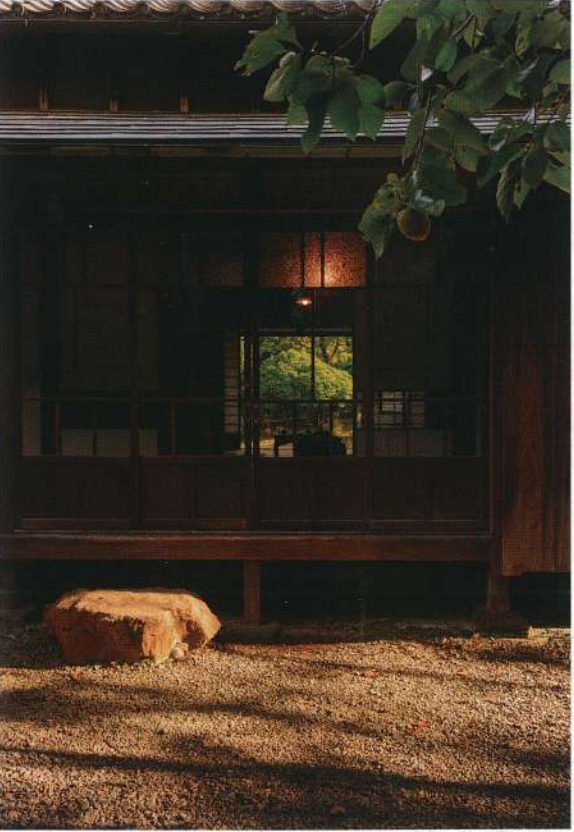
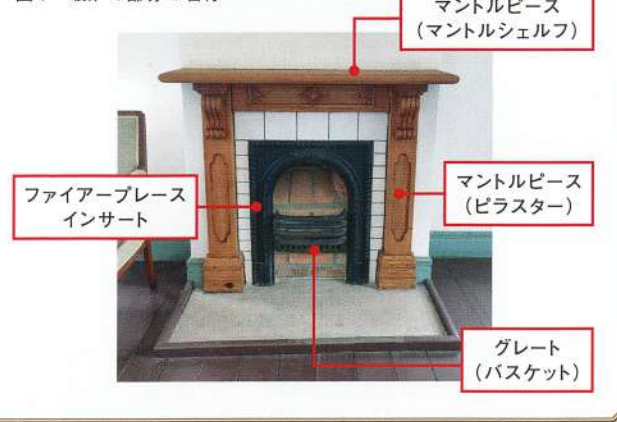


図1 暖炉の部分の名称



暖炉内枠（ファイアーブレス インサート）は三点存在しています。興味深いのはそのうちの二点は二階の旧東西一之間（緑之間（内枠①写真④と表記）、瑠璃之間（内枠②（写真⑤と表記））のものであることが判明しました。

明治村に残されている暖炉周りの資料として多いのはグレート（バスケット）と呼ばれる炭をくべる炉です。しかし現在、グレートに関しては、部屋を同定することができ資料を確認できていません。またマントルシェルフやマントルピース（ピラスター）など大理石が用いられている部分はほとんど残されていません。これは大理石を解体時に完全な形で残すことが容易ではなかったためと想像されます。

2 取りはずされた暖炉（図1）



写真4 緑之間の暖炉内枠



写真5 瑠璃之間の暖炉内枠



写真6 緑之間の暖炉内枠の裏面に書かれた数字

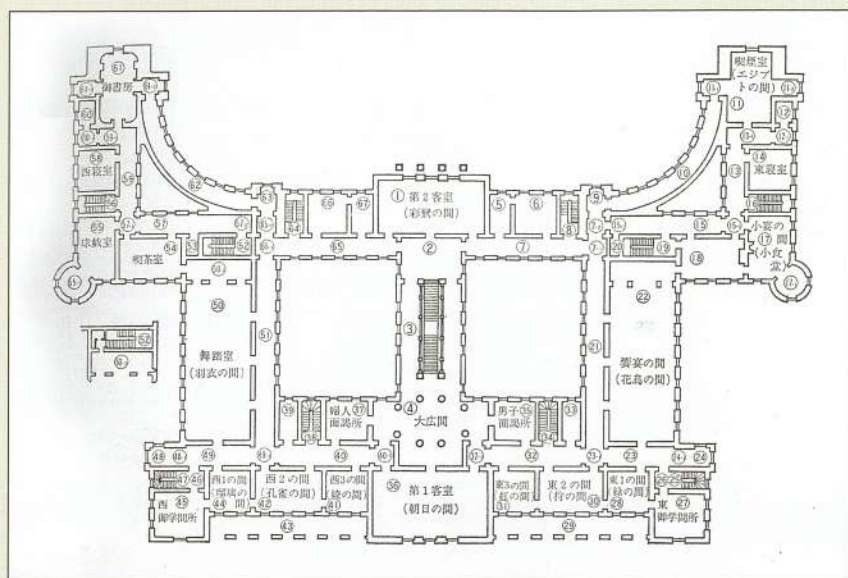


図2 旧東宮御所二階の部屋番号(改修記録 29ページより抜粋)



写真8 瑠璃之間 東宮御所写真帳より

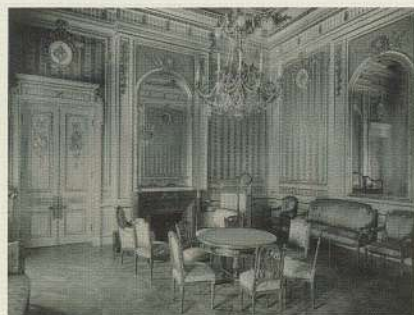


写真7 緑之間 東宮御所写真帳より

内枠①と②は創建当初は皇太子及び皇太子妃の居室としてしつらえられた格調高い部屋のもので、それぞれの装飾のモチーフに関しては、さらなる調査（写真④）が必要ですが、緑之間の内枠①は力強さを、瑠璃之間の内枠②は華麗な印象を与えます。また、内枠の①と②は、鑄鉄製（写真①）で、見

た。古写真（註③）からは内枠①は東一之間（緑之間）と三之間（紅之間）に、内枠②は西一之間（瑠璃之間）と三之間（綾之間）に同型のものが用いられていることがわかります。表面の意匠からは、どちらの部屋で用いられたのか判別が困難でしたが、内枠①の裏面には「2128」（写真⑥）と記されているのがみわかりました。この数字を迎賓館への改修の際の記録（以後、改修記録と記す）の図面に振られた室番号（図②）と照合すると、東一之間（緑之間）（写真②）に一致。さらに改修記録に「：東側スイートルームの居間は東三之間（紅之間）、主寝室は東二之間（狩之間）が使われ、いづれも復元に近い改修が施された。（中略）東一之間（緑之間）は全面的に改造されブドアル（註⑤）、バスルーム、ワードローブの諸室が新設された。」との記述からも、内枠①は緑之間のものであることが証明されました。また内枠②は明治村へもたらされた際にきれいに清掃され、自立するように台座も設けられており、資料には直接的な手がかりはありません。しかし先述の改修記録の「西側スイートルームは東側と同型で：（後略）」と記述から緑之間の対称の位置にある瑠璃之間（写真⑤）のものであることが考えられます。残る暖炉内枠（内枠③）（写真⑨）は裏面に「2158」（写真⑩）という数字から一階西一之間であることが判明しました。

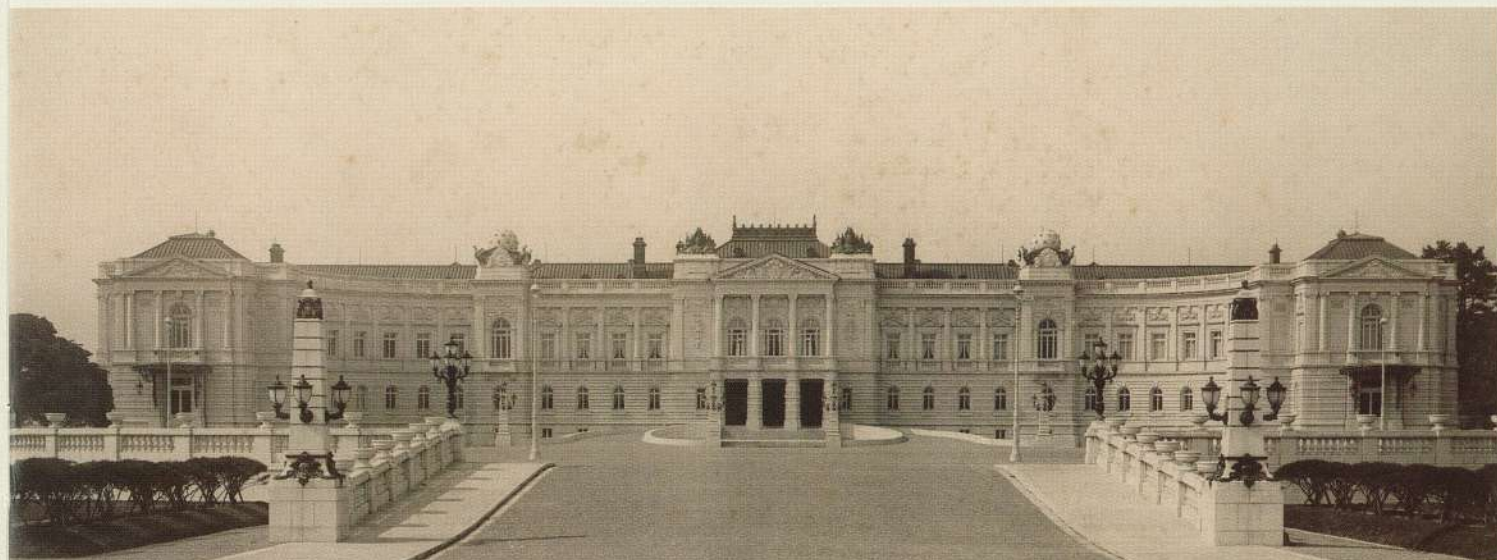


写真1 竣工当時の旧東宮御所

旧東宮御所のおもかげ

明治村所蔵の暖炉内枠



写真2 近衛局本部付属舎での展示の様子



写真3 「体験 甦る明治」ポスター

1 明治村所蔵の皇室関連資料について

博物館明治村には、明治時代に建てられた宮殿や宮家住宅の資料を数多く所蔵しています。特に家具は西郷従道邸や三重県庁舎内の室内再現に使用され、目にされた方も多いのではないでしょうか。

これら資料は大きく分けて、開村当初（一九六五年前後）と旧東宮御所（現 迎賓館赤坂離宮）の迎賓館への改修工事が終了した後の一九七八年の二度にわたって受け入れられたものです。

開村前後に受け入れたものは、宮内庁の倉庫に保管されていたものと聞き及んでいます。様々な宮殿や宮邸で使用されていたものという点に特徴があります。実は、長い間、それらの出自が明確に特定できず、一律に「宮中使用」と曖昧な表現で、西郷従道邸や三重県庁舎で展示されていました。

一方、一九七八年に受け入れたものは、当時の明治村の副館長・岡田譲（註⑥）ははじめ明治村スタッフが、改修で不要となった調度品などをもらい受けるために現地へ赴き、選定したものです。明治村では一九八〇年一月にお披露目展「赤坂離宮の洋風家具」を行い、その後は、皇宮警察署別館（現 近衛局本部付属舎）において常設展示を行っていました（写真②）。

これらの調度品などの「具体的な使用場所」に着目するようになった契機は、一九九八年の室内再現展示「甦る明治」（写真③）です。調度品などを修理展示するにあたって、詳細な調査を行っていくと、開村当初に受け入れたものの中にも旧東宮御所で使用されていたものが混在していることも判明しました。

A La Meiji-mura

燈には、数多くの緻密な意匠が盛り込まれています。

全体を見ると、青銅で作られた柱の最上部に一つ、柱から伸びる四つの腕木に一つずつ、併せて五つのガラス製火房（グローブ）が設置されています。

細部の装飾を上から順番に見ていくと、最上部のグローブや腕木（写真2）には西洋建築の定番である「アカンサス」があらわれているように見えますが、最上部のグローブを支える台座には「十六花弁の菊」（写真3）を見ることができます。この菊の存在によって、アカンサスに見えていた文様もどこか日本の菊の葉を模しているかのように感じられてきます。アカンサスなのか、菊の葉なのかを断定することは困難ですが、西洋のデザインとも日本の伝統的な意匠とも受け取れる表現です。

次に、腕木から吊り下げられている四つのグローブに注目してみます。電球を固定するためのパーツには、七宝文様のようにも八花弁の花にも見える釘隠し（写真4）が四つずつ取り付けられ、火房の可憐なアクセントとなっています。

火房よりさらに下部へと視線を移していくと、布が掛けられた杯（写真5）が取り付けられています。

その下の台座部分には四方に「太陽」「ライオン（獅子）の頭部」「矢」（写真6）が作り込まれています。「太陽」は日本では旭日、西洋ではルイ十四世（太陽王）のモチーフとして用いられてきました。「ライオン」は日本では「獅子」と呼ばれ、東西を問わず古代から守り神とされてきたモチーフです。「矢」も日本では「違い矢」と

皇居正門石橋飾電燈の細部紹介

写真2 飾電燈上部



写真3 十六花弁菊紋



写真4 火房釘隠し



写真6 太陽と獅子、矢

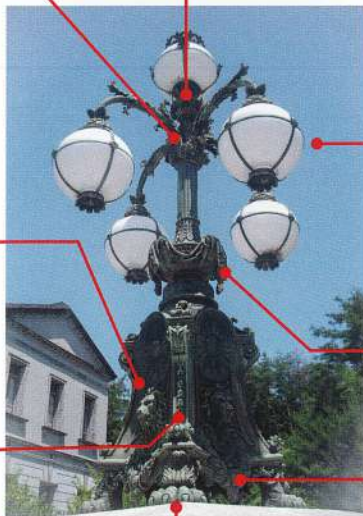


写真5 杯



写真7 下部角のデザイン



写真8 獅子の脚



写真9 メダリオン

して家紋などに用いられ、西洋でも紋章に多用されるモチーフの一つです。

さらに台座の角には、スズランに代表されるベルフラワーにも、桐の果実や種子とも思われる文様（写真8）が連なっています。そして電燈の最下部には、力強いライオン（獅子）の脚（写真9）とメダリオン（写真9）があらわれ、全体の足元を重厚に締めくくっています。

こうして各パーツを上から順に観察し

てみると、使用されているモチーフは皇室の象徴や古くから日本で親しまれてきた意匠とも取れますし、西洋から新しく流入したデザインとも受け取ることができます。

日本と西洋の美意識を見事に盛り込んだ電燈。五丁目を巡る際は、ぜひこの飾電燈に少し近づいて、ひとつひとつのモチーフが描く意匠の世界をじっくり楽しんでみてください。

- 参考文献
- （1）日本工学会編 一九九四年『明治工業史』原書房
- （2）浅羽英男ほか 二〇〇五年『皇室建築 内匠寮の人と作品』株式会社建築画報社
- （3）皇居御造営誌編集委員会編 一九九二年『皇居御造営誌62 石橋架設事業』
- （4）日本建築学会 一九三四年『建築雑誌』「河合浩蔵君の計」
- 註一 CONDIER Josiah
- 註二 ENDE Hermann Gustav Louis
- 註三 BOCKMANN Johann Heinrich Wilhelm



写真1 皇居正門石橋飾電燈全体

皇居正門石橋飾電燈の細部をたずねて

5丁目 皇居正門石橋飾電燈

博物館明治村の五丁目にたたずむ「皇居正門石橋飾電燈」（写真1）は、明治二十一年（一八八八）年の明治宮殿造営に伴い、木橋が石橋へ架け替えられた際にあわせて男柱に設置されたものです。設計を手掛けたのは、工部大学校でジョサイア・コンドル（註二）に学び、当時は皇居御造営事務局の建築掛設計方に配属されていた二十七歳の若き建築家・河合浩蔵でした。河合は明治十九年にドイツへ留学し、

明治政府が招聘したヘルマン・エンデ（註一）やヴィルヘルム・ベックマン（註三）の事務所勤務。帰国後はベックマン設計による法務省旧本館の建設に関わり、退官後は関西を拠点に大阪地方裁判所やみかどホテル新館などを手掛けました。『建築雑誌』に掲載された追悼記事「河合浩蔵君の計」において、コンドル門下の曾祖父達蔵や事務局とともに設計にあたった中村達太郎らが彼の功績として挙げたこの小さな飾電

旧東宮御所のおもかげ

た目の重厚感そのままに大人四人がかりでようやく持ち上がるほどの重量があります。対して内枠③は真鍮の型押し（写真10）とみられ、使用場所も随行員の居室であつたことから、量産しやすいものが用いられたと推測されます。



写真9 一階西一之間の暖炉内枠



写真10 一階西一之間の暖炉内枠の裏面に書かれた数字



写真11 鋳造のあとを見ることが出来る暖炉内枠裏面



写真12 型押しのあとがわかる西一之間の暖炉内枠裏面

3

旧東宮御所から 迎賓館赤坂離宮へ

迎賓館赤坂離宮は一九〇九（明治四十二）年に、当時の皇太子（東宮、後の大正天皇）のための宮殿として、十年あまりの歳月

をかけ完成した、日本人建築家による本格的な西洋建築の宮殿です。

一九二二（大正十一年）年から五年余りは摂政宮（後の昭和天皇）の、一九四五（昭和二〇）年から二年ほど皇太子（後の平成天皇）のお住まいとして用いられました。その後は国立国会図書館や東京オリンピック組織委員会に用いられました。

一九六三年に、外国の賓客を迎える迎賓施設的重要性が高まり、東宮御所を迎賓館として整備することが閣議決定されました。工事は一九六八年に開始され、一九七四年に「迎賓館赤坂離宮」として開館しました。その工事の陣頭指揮を執ったのが建築家の村野藤吾です。余談ですが、この改修にあわせて新たに設けられ

4

幻の室内を再現

今回は東宮御所で用いられた暖炉内枠に焦点をあてました。調査によって浮き彫りになったのは、建物として旧東宮御所は現存しているものの、明治村へもたらされた創建当初の調度品などが使用された「往時の室内空間」は改修工事によって姿を消したという事実です。

明治村では、これからもこれらの調度品を丹念に調査することで、現在は失われた旧東宮御所の創建時を彷彿させる空間を皆様にご覧いただけるよう努めてまいります。

- 註一 岡田謙（おかだ じょう 二九一一―一九八二）東京国立博物館学芸部長、東京国立近代美術館長を歴任、一九七六年から明治村副館長、財団法人明治村専務理事。
- 註二 東宮御所写真帳。東宮御所竣工後、すべての室内の写りが収められた写真帳。百五十枚の写りが二分冊に収められている。
- 註三 迎賓館（通称「迎賓館赤坂離宮改修記録」一九七七 迎賓館 一四七頁
- 註四 Boudoir 化粧や身支度を整えるプライベートスペース